Moisteane

モイスティーヌ

No. 146
2023
Spring

35周年を迎えたモイスティーヌ「今まで」と「これから」

日本が誇る伝統を継承し、いま求められている現代的な名品を作る職人さんやメーカーが増えています。その成り立ちや独自の技術に注目し、伝統から生まれた新たな作品と匠をご紹介します。

木工品「BUNACO」

歴史とともに培われてきた日本の木工技術

国土の約7割が森林という日本では、木は古くから住宅をはじめ日用品や家具など、身の回りのさまざまなものの材料となってきました。1本の木を切り、くりぬき、彫り出し、組み合わせ、曲げる、締めるなど、日本の暮らしを支えてきた木工技術は、人々の生活だけでなく、寺や神社などの文化的な遺産も支えてきました。

長い歴史とともに培われてきた精巧な技術は、世界的にも高い評価を受けています。とはいえ、近年は木材輸入の増加にともない、林業や木工業の日本の伝統工芸がサスティナブルでなくなっています。そんな中、日本の青森県の森から、天然素材であるブナの柔らかな表情を使い、エコロジカルで繊細な技術を用いた美しいプロダクト「BUNACO」が生まれました。

何にも使われなかったブナをデザイン性の高い生活用品に

「BUNACOは、日本一の蓄積量を誇る青森県のブナの木を有効利用するために開発された当社独自のユニークな製法で、ひとつひとつ丁寧に手作りされている木工品です」と、ブナコ株式会社広報の秋田谷恵さん。

青森県には世界最大級のブナの原生林・世界遺産「白神山地」があるように、ブナの木が豊富にありました。

「ブナは〝天然のダム〟と呼ばれるほど保水力に優れた木です。しかし、幹に水分を多く含むブナは建築材としては狂いが大きく、腐りやすく、従来の木工加工技術では乾燥が難しかったため、利用できる木材にはなりませんでした」

そのため、枕木や薪などにしか使われず、役に立たない木として戦後は大量に伐採されていたのだそうです。

「そんな青森のブナを有効利用するべく、BUNACOの技術が発明されたのは1956年。ブナの加工のしにくさと、狂いが大きいという欠点を解消し、従来の削り出し製法に比べ少ない資材で木材が活用できるという画期的な技術でした」

BUNACOの製法は、テープ状にしたブナ材をコイルのように巻き、押し出して成型するという独自なもの（左・制作工程参照）。その際、ブナ材の巻き方やずらし方を変えることによって、実にさまざまなフォルムを生み出すことが可能です。

「これはブナの特性である硬くも柔らかくもなく粘り強いしなやかさと、熟練した職人による技術があるからこそできるものです」

BUNACOはブナの木を薄いテープ状にしてから加工することで木を十分乾燥させることができるため、従来の木工品のような狂いや割れは生じることがないといいます。

クリエイティブでありエコロジカルな製品作り

「同じ大きさの器を作る際、BUNACOと挽物（木の立方体を削る手法）とを比べてみると、BUNACOでは約1/10の資源で製作が可能です」

見た目のやさしさだけでなく製法上でもエコロジカルなBUNACOは、持続可能な環境との共生が課題となっている昨今、世界でも先進的なプロダクトとして注目されています。

「伝統工芸の製法を守り、時代にあった製品を作り、お客様に実際に使っていただいて良さを感じていただけるものづくりをしています」

社内にデザイナーは存在せず、お客様の要望や職人の意見から新たな商品を開発することが多いのだそう。製造は職人が一人で行うのではなく、工程を分業化することにより、女性や若年者の職人を育成しやすい環境を作り出しています。

「現在にあった、人と自然に配慮したものづくりの良さを、ぜひ実感していただければ幸いです」

❶ ペンダントランプ 40,700円（税込）
❷ ペンダントランプ 各26,400円（税込）
❸「正座のため」のイス 各17,600円（税込）
高さ2サイズ、座面6色からお選びいただけます。
❹ スツール 49,500円～（税込）
❺ ボウル 外側から大26,400円（税込）
中17,600円（税込）、小11,000円（税込）
❻ トレー 下から大15,400円（税込）
中13,200円（税込）、小11,000円（税込）

● 製作工程

1. ブナを薄い板にする

2. テープ状にする

3. 巻き上げる

4. 成形する
※独自の手法を用い、接着・乾燥・塗装の工程を経て、安全で安心なBUNACO製品が完成する

● 取材協力
ブナコ株式会社
青森県弘前市豊原1丁目5番地4号
TEL：0172-34-8715
www.bunaco.co.jp
ブナコ株式会社
広報　秋田谷 恵さん